

シンビット® 静注用50mg の溶解調製法

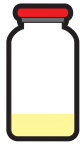
（ニフェカラン塩酸塩注射剤）

Shinbit inj. 50mg

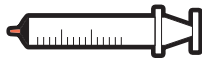
1バイアルを50mLに溶解（1mg/mL）する方法を例示します。

① 溶解準備（用時溶解！）

① シンビットバイアル



② ディスポシリンジ
（20mLまたは30mL）



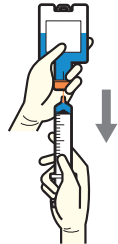
③ ピンク針（18G）



④ 生理食塩液50mL
または
5%ブドウ糖
注射液50mL



② 溶解・調製（溶解液は24時間以内に使用！）



I. 50mL輸液ボトルより
適量（5mL程度）抜き取る。



II. シンビットバイアルに
抜き取った液を注入する。
（シンビットの溶解を確認。）



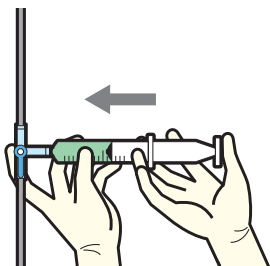
III. 溶液を全て
シリンジに抜き取る。



IV. IIIで抜き取った溶液を、
元の輸液ボトルに戻す。

③ 投与

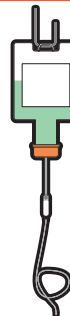
単回静注法



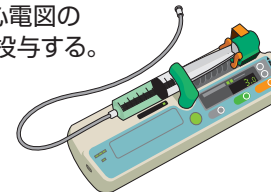
裏面の体重別投与量早見表を
参考に輸液ボトルより必要量を
シリンジで抜き取り、5分間かけて
心電図の連続監視下に
静脈内に投与する。

効果の維持が期待する場合
→ 単回静注が有効で

維持静注法



輸液セットもしくはインフュージョン
ポンプを用いて静脈内に投与する。
裏面の体重別投与量早見表を参考に
1時間あたり等速度で心電図の
連続監視下に静脈内に投与する。



【警告】

1. 施設の限定
本剤の使用は致死的不整脈治療の十分な経験のある医師に限り、かつ諸検査の実施が可能で、緊急時に十分対応できる設備・装置を備えている医療機関でのみ使用すること。
2. 患者の限定
他の抗不整脈薬が無効か、副作用により使用できないか、又は心機能が低下しているために使用できない致死的心室性不整脈患者にのみ使用すること。

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

1. QT延長症候群の患者[本剤の作用によりQT時間が更に延長し、心室頻拍（Torsades de pointesを含む）を誘発させるおそれがある。]
2. アミオダロン注射剤、フィンゴリモド塩酸塩、エリグルス、タクト石炭酸塩を投与中の患者[「相互作用」の項参照]

【原則禁忌（次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること）】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性[「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照]

【効能・効果】

生命に危険のある下記の不整脈で他の抗不整脈薬が無効か、又は使用できない場合
心室頻拍、心室細動

【用法・用量】

単回静注法 / 通常、成人にはニフェカラン塩酸塩として1回0.3mg/kgを5分間かけて心電図の連続監視下に静脈内に投与する。

維持静注法 / 単回静注が有効で効果の維持を期待する場合には、通常、成人にはニフェカラン塩酸塩として1時間あたり0.4mg/kgを等速度で心電図の連続監視下に静脈内に投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。投与に際しては、生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液で溶解して使用する。

■効能・効果、用法・用量、警告・禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意等の詳細は添付文書をご参照下さい。

★添付文書の改訂にご留意下さい。



QRコードから添付文書をご確認いただけます。
<https://med.toaeiyo.co.jp/products/shinbit/pdf/tenpu-snb.pdf>

シンビット® 静注用50mg 体重別投与量早見表

（ニフェカラント塩酸塩注射液） *Shinbit inj. 50mg*

※「用量」・「体重」・「1バイアル（50mg）溶解液量50mLまたは100mL」から単回静注1回分または維持静注1時間分の必要液量（mL）を選択して下さい。

※単回静注は5分間で、維持静注は1時間かけて投与して下さい。

| 用量 (mg/kg) | 体重 (kg) | 投与液量(mL) | | 24時間維持静注に 必要なバイアル数 |
|---------------|------------|------------------------------|---------------------------------|-----------------------|
| | | 1mg/mL溶液(50mLで溶解) を使用した場合 | 0.5mg/mL溶液(100mLで溶解) を使用した場合 | |
| 0.10 | 30 | 3.0 | 6.0 | 2 |
| | 40 | 4.0 | 8.0 | 2 |
| | 50 | 5.0 | 10.0 | 3 |
| | 60 | 6.0 | 12.0 | 3 |
| | 70 | 7.0 | 14.0 | 4 |
| | 80 | 8.0 | 16.0 | 4 |
| 0.15 | 30 | 4.5 | 9.0 | 3 |
| | 40 | 6.0 | 12.0 | 3 |
| | 50 | 7.5 | 15.0 | 4 |
| | 60 | 9.0 | 18.0 | 5 |
| | 70 | 10.5 | 21.0 | 6 |
| | 80 | 12.0 | 24.0 | 6 |
| 0.20 | 30 | 6.0 | 12.0 | 3 |
| | 40 | 8.0 | 16.0 | 4 |
| | 50 | 10.0 | 20.0 | 5 |
| | 60 | 12.0 | 24.0 | 6 |
| | 70 | 14.0 | 28.0 | 7 |
| | 80 | 16.0 | 32.0 | 8 |
| 0.30 | 30 | 9.0 | 18.0 | 5 |
| | 40 | 12.0 | 24.0 | 6 |
| | 50 | 15.0 | 30.0 | 8 |
| | 60 | 18.0 | 36.0 | 9 |
| | 70 | 21.0 | 42.0 | 11 |
| | 80 | 24.0 | 48.0 | 12 |
| 0.40 | 30 | 12.0 | 24.0 | 6 |
| | 40 | 16.0 | 32.0 | 8 |
| | 50 | 20.0 | 40.0 | 10 |
| | 60 | 24.0 | 48.0 | 12 |
| | 70 | 28.0 | 56.0 | 14 |
| | 80 | 32.0 | 64.0 | 16 |

●シンビット® 静注用50mg との 配合変化が確認されている主な薬剤

以下の薬剤は、シンビット溶解液との混合によって、直後から3時間後までの間に配合変化が認められていますので、特に、維持静注の際に同一ラインからの投与は避けて下さい。

| | |
|--------|--|
| 利尿剤* | ●ソルダクトン静注用100mg ●ラシックス注100mg |
| 強心剤 | ●イノバン注100mg ●カタボン・Hi注600mg |
| 不整脈用剤 | ●静注用キシロカイン2% ●アスペノン静注用100 ●アデホス-L コーフ注40mg ●タンボコール静注50mg |
| 血液代用剤 | ●ヴィーンF輸液 ●メイロン静注7%/ メイロン静注8.4% |
| 全身麻酔剤 | ●ラボナール注射用0.3g |
| 催眠鎮静剤 | ●セルシン注射液10mg |
| その他の薬剤 | ●プロテアミン12注射液 ●ザンタック注射液50mg/ ザンタック注射液100mg ●ニコリン注射液250mg/ ニコリン注射液500mg ●ヘパリンNa注5千単位/ 5mL「モチダ」/ ヘパリンNa注1万単位/ 10mL「モチダ」 |

※利尿剤は併用注意です。本剤の作用が増強する可能性があります。